

認知症に関するワークショップ実施概要

1. 目的

認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会を実現するためには、区の認知症在宅支援施策に加え、区民、家族会、関係機関など地域の方々の協力が必要である。

このため、色々な立場の方々から、地域全体で何ができるか、何が求められているのか等の意見をいただき、今後の検討の参考とする。

2. 開催日時

令和元年6月23日（日） 14時～16時

3. 開催場所

北沢タウンホール12階 スカイサロン

4. テーマ

認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと

5. 参加者

一般公募に加え、認知症講演会受講者、家族会や介護事業者あてに募集案内を行ったところ、地域にお住まいの家族会、介護事業者等の関係機関から31名が参加した。

内訳	人数	備考
区民	16	一般公募、認知症講演会受講者、もの忘れチェック相談会受講者、認知症カフェボランティア、認知症サポーター
家族会等	3	家族会・認知症カフェ運営者
介護事業者	8	あんしんすこやかセンター（認知症専門相談員、東京都認知症介護指導者）、ケアマネジャー、認知症デイサービス、小規模多機能居宅介護、世田谷ボランティア協会
医療関係者	2	区内医療機関（精神保健福祉士）、区職員（保健師）
学識経験者	2	東京医療保健大学大学院看護学研究科講師 日本大学文理学部社会福祉学科教授

6. 運営方法

(1) 概要

事務局からワークショップの主旨と進め方について説明を行った後、参加者が認知症施策について理解した上で意見交換ができるよう、ワークショップを始める前に世田谷区の認知症施策についてのミニ講話を行った。

ワークショップは、リラックスした雰囲気で多くの意見が出るようワールドカフェ方式で行い、参加者を4つのグループに分け実施した。各グループには進行補助としてファシリテーター1名を配置した。そして、第1セッションと第2セッションに分け、セッション毎に参加者がテーブルを移動して新たなグループで話し合いを行った。

その後、第3セッションとして、最初のグループで話し合いの結果をとりまとめ、各グループで発表した。

全体スケジュール

項目	時刻	時間	内容
全体ガイダンス	14:00～14:10	10分	・挨拶 ・ワークショップの主旨、進め方の説明
ミニ講話	14:10～14:25	15分	・世田谷区認知症施策についての説明
ワークショップ (第1セッション)	14:25～14:50	25分	・認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと
ワークショップ (第2セッション)	14:50～15:15	25分	・認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと
ワークショップ (第3セッション)	15:15～15:35	20分	・意見まとめ
発表	15:35～15:50	15分	・各グループ発表（3分×4テーブル）
総評・閉会	15:50～16:00	10分	・総評 ・挨拶 ・アンケート記入、回収

(2) ワークショップの進め方について

参加者は4つのグループに分かれ、区民間の自由な意見交換と情報共有を進めるため、セッション毎にテーブルを移動しつつ議論を行うワールドカフェ方式で話し合いを行った。

第1セッションではミニ講話の感想及び「認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと」について意見を交換した。テーブルを移動した後、第2セッションでは「認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと」について意見を重ねた。第3セッションでは、移動前のテーブルに戻って意見のとりまとめを行い、最後に各グループが検討結果を発表した。

(3) 発表について

発表は、各グループで出された意見や提案を模造紙に付箋で貼り、整理して行った。

ワークショップの進め方

① 第1セッション（14：25～14：50）

ミニ講話の感想及び「認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと」

	項目	時間配分
準備	①自己紹介	5分
話し合い	②自由な意見交換	18分
	③テーブル移動	2分

② 第2セッション（14：50～15：15）

「認知症の方の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して住み続けられる社会の実現に向けた課題や必要なこと」

	項目	時間配分
準備	①自己紹介 ②第1セッションの情報共有	5分
話し合い	③自由な意見交換	18分
	④テーブル移動	2分

③ 第3セッション（15：15～15：35）

意見のまとめ

	項目	時間配分
準備	①第2セッションの情報共有	5分
話し合い	②意見まとめ	15分

④ 発表（15：35～15：50）

	項目	時間配分
	①発表	3分×4

7. 主な意見（概要）

本ワークショップにおいて、各グループの討議を通じて出された主な意見を整理すると以下ようになる。

（1）本人、家族について

- ・今は非常に安定していて、それは自立しているからである。具体的には、自己決定、例えば、お金の管理は自分でする、毎日日記を書くことで短期のもの忘れをフォローする。そうすることで、心の安定が変わった。
- ・認知症の方が自分で決めていくことは大切だ。決められる方は、決めていただければいいが、決められない方をどう支えていけばいいのか、特に家族がいない方など。
- ・認知症の方が、認知症ということを知り、どうやって前向きに考えられるかという中で、認知症というのが悪いことで隠そうとすることがひとつの問題ではないのか。カミングアウトできない環境があると思う。正しい普及活動がもっと必要。
- ・支える側の自分を大切にすることを基準とするべき。自分が倒れてしまっただけでは本末転倒である。

（2）相談窓口、場（居場所）

- ・今後一人暮らしの方が増えてくると思うが、現在のあんしんすこやかセンターの数ではまかないきれないので、一人暮らしの方の相談相手になるような人が必要。
- ・認知症の方が議論する場が他の自治体で様々開催されているが世田谷区では開催しているのか。家族とは全く違う想いを認知症の方は抱いていることがよくあるので。
- ・メールでの相談、「認知症相談アプリ」のような相談ツールが作れると良い。
- ・「うめとぴあ」に入る認知症在宅生活サポートセンターに、認知症に関わる人たちが集まり、情報交換のできる場所を作って欲しい。

（3）地域の理解、見守り

- ・認知症に対する地域の理解がまだまだ足りない。認知症だけで悪みたいなイメージがあるため、認知症の方達が隠そうとするから表に出てこなくて、酷くなって周りが気づいてあんしんすこやかセンターに連絡がある。もっと認知症のイメージを変えられないかと思う。
- ・支えあいサービス協力員がもっと増えると良い。
- ・元気な高齢者がこれから増えていくと思うが、地域の見守りを推進することが大切。

（4）若年性認知症

- ・若年性の認知症の方が増えていて、若い方は高齢者のデイケアでは合わなくて上手くいかない。
- ・若年性の認知症の方は就労意欲がある。希望しているところが、高齢の方とは違う。

（5）予防

- ・予防というのは、認知症にならないことではなく、生活習慣とか健康を保つことなど、基本的な体調管理が大事。

（6）その他

- ・1回だけでなく継続してワークショップを開催して欲しい。